

会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2012年5月号



## 千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2012年 5月1日発行 通巻229号(毎月1回発行)

個人会員制度を導入して

新しい仲間を迎えよう

## 5月号 目次

5月号目次		2
私の一名山	桑原 年一	3
個人会員制度の実施にむけて	広木 国昭	4
35周年記念祝賀会報告(東葛山の会)	安彦 秀夫	6
花博士の花便り	中原 紀代治	8
足尾・春の植樹デー参加報告	自然保護委員会	9
雪上技術講習会報告	教遭委員会	10
沢んちゅの会報告	吉田 哲治	11
災害支援活動報告	NPO「ちば労山ゆう」	16
平和を願うコンサート案内		18
県連たより		19
5・6月予定表		20

### 今月の一名山

今月の「私の一名山」は、県連ハイキング委員長・松戸山の会の 桑原 年一 さんにおねがいしました。松戸山の会は、創立30周年記念として台湾第2の高峰「雪山」(3,886m)に15名で挑みました。山行報告は、まさしく挑んだと言った表現がピッタリの強行軍です。さらに、帰りのフライトが暴風の影響で大幅に遅れました。

それでも、ハプニングはありましたが、天気恵まれ「よわい80才」の記念すべき年に登頂出来て最高の出来事、最高の一名山と結ぶ。

まさしく「豪放磊落」 明治生まれの気質??????失礼しました。

編集担当 広木 国昭

山行日 2012年4月1日(日)～4日(水) 前夜泊

参加者 14+1 15名

松戸山の会 30周年記念の一環として海外登山 IN 台湾:「雪山」に登って来ました。此の山は台湾の山の中で「玉山」に次ぐ第二の山で雪山連峰の最高峰と聞いています。玉山(新高山)はポピュラーの山で非常に混んでいる為に雪山を選んで正解でした。ただ山が深いため登山道が長くていささか参りました。

羽田発が早い為前泊しての出発です。台北(松山空港)には10:00には着いたがバスで登山口までが時間が掛り、登山口から一泊目の「シチカ山荘」到着が19:00近くになってしまった。勿論ヘッテンのお世話になった。

二日目の登山日は2:00起床・3:00出発です。前夜ご法度の睡眠薬を使用したため高山病と寝不足でふらふら状態での出発でした、幸い持参した携帯酸素を休憩ごとに使用したので、だんだんと良くなり、中間点の「三六九山荘」に着く頃には元に戻り助かった。

一息ついて出発、まだまだ長い、途中休憩を入れてようやく山頂を踏むことが出来た。山腹には多少雪は残っていたが、もう少しで開花のシャクナゲの群落があり、山頂まで続いている、3,886mなのに日本のアルプスとか富士山の様な岩稜帯はありませんでした。やはり気候の違いと地形かとも感じた。

山頂は霧がかかっている視界はなく、風も強かったので早々に下山する。今来た道なのに長く感じる。三六九山荘で大休止する。それから又下山、まだシチカ山荘までは長い、又またヘッテンのお世話になり、19:00頃、なんとか到着して休むことが出来た。約14・5時間は歩いた事になりました。

次の日は下山、台北市内のホテルに直行出来て今度は快適でした。

最終日は台北市内観光と買い物と旅行気分に戻り、空港に着きました。それからが大変、前日の日本の暴風の影響が残り、フライトが大幅に遅れて、はらはらどきどきで羽田に着いたら大急ぎで解散、なんとか最終電車に間に合い帰宅できました。

色々なハプニングはありましたが、4日間天気に恵まれ、無事に登頂出来たことが何よりでした。私にとっては、よわい80才の記念すべき年に登頂出来て最高の出来事と、最高の一名山でした。



投稿者、県連の重鎮 桑原ハイキング委員長  
益々元気、生涯・ハイキング委員長  
今後とも、よろしくお願ひします。

編集担当 広木 国昭

## 個人会員制度の実施に向けて(1)

千葉県連盟 会長 広木 国昭

千葉県連盟は、2010年度(第44期)総会において「個人会員制度」の導入を決議した。同時に「拡大検討部会」を立ち上げ、組織強化に取り組むと同時に個人会員制度の導入に向けて活動して来た。

全国連盟における「個人会員制度」の取り組みは、2010年度総会に「個人会員制度導入」が提案され、2年間の全国討議を踏まえて、2012年2月(第30回)総会において「個人会員制度導入」が可決された。本格的導入に向けて「個人会員制度促進本部」を全国理事会に設置して、制度の詳細の検討、山行管理システム等の開発に取り組んでいる。同時に、制度の本格実施に向けて、地方連盟による実証活動を実施する。

千葉県連盟は、県連盟理事会(4月19日)において、「個人会員制度導入」に向けて、この実証活動に参加する事を承認した。

今後、全国連盟の「個人会員制度促進本部」との協議を進め、拡大検討部会を中心にして、千葉県連盟の現状に合った個人会員制度を導入したい。

◆ 全国連盟から提案された、個人会員制度の具体的な実施行程について。

個人会員制度の募集は、2012年8月1日から開始する。2013年2月の臨時総会に向け、全国連盟と地方連盟の実証区で制度についての実証活動を実施する。

臨時総会までの実施行程を以下の3段階で進めることを決定した。

**【第1段階】個人会員制度実施準備 (総会～6月)**

1、個人会員制度促進本部の設置・・・設置済。

・ 全国連盟理事会に設置し、本部長・副本部長・事務局及び専従者を配置する。

2、安全サポートセンターの設置・・・6月より設置予定。

・ 安全サポートセンターの開設準備を3月より開始する。・・・システム概要決定。

3、実証区に参加する地方連盟の受付登録。

・ 3月1日より受付登録開始する。・・・5地方連盟が参加表明。

4、個人会員制度ガイダンス等計画の完成。

・ 入会ガイダンス計画、安全登山教育計画を5月までに完成。・・・6月より実施。

**【第2段階】個人会員制度の実施と宣伝(7月～8月)。**

1、個人会員制度の実施。

・ 全国連盟受付を、8月1日より開始する。

・ 個人会員制度導入の宣伝活動の実施。

**【第3段階】個人会員制度の実施と宣伝。**

1、個人会員制度の宣伝活動。

・ 個人会員制度ホームページを開設する。

・ 実証区と連携して、制度の説明会・各種イベントの実施。

2、個人会員制度の初期点検(入会・補償制度・山行管理)9月実施。

◆ 個人会員制度の実証区活動とは。

今年2月の全国総会において、個人会員制は、全国連盟と導入を希望する地方連盟が実施する。地方連盟は、当面、実証区制度としてスタートするという行程が決定した。

実証区に参加するとどのような活動を実施するのか。

- 1 全国より、個人会員制への参加者を募集する。
  - ・ 個人会員募集の具体的活動は、主に全国連盟で実施する。
  - ・ 地方連盟の特徴を活かした、独自の宣伝活動を全国連盟と協力して実施する。
- 2、個人会員制度の基本方針である「パートナーシップ」(仲間づくり)の推進活動。  
具体的活動の一例として。
  - ・ 既存の会・会員と、個人会員の交流を目的とした、イベント等の開催。
  - ・ 登山を中心にした、各種学習教育活動の開催。
- 3、全国連盟が実施する「安全サポートシステム」(山行管理システム)への参加。
- 4、実証区に参加する地方連盟の、独自事業、教育講習会などの実施。

◆ 千葉県連盟は、2010年総会において、個人会員制の導入を決議しました。これを受けて、県連盟理事会は個人会員制度の本格導入へのステップとして、実証活動への参加を決議しました。

今後、拡大検討部会を中心に取り組みを進めて行きます。各会からの、参加ご協力をお願いします。

◇ 個人会員制度導入への、質問・ご意見は、

広木まで：[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp) 090-8316-2020

県連ホームページ・事務局への問合せ

※ 用語解説

Q-1、実証区とは？

A 個人会員制度の導入は、労山としては初めての事です。既存の会・会員とは全く別組織とし運営されます。山行管理、学習教育などを実際に運営してより良い制度にするための実証活動を実施します。

Q-2、パートナーシップ(仲間づくり)とは？

A 個人会員制度は、既存の会・会員とともに労山の基礎組織を構成します。二つの組織が相互のパートナーとして、個人会員がお互いのパートナーとしてそれぞれのパートナーシップ(仲間づくり)の確立を目指します。

Q-3、安全サポートシステム(山行管理システム)とは？

A 個人会員の事故・遭難などに対し、自己責任による安全登山のための山行管理システムを導入します。パソコン・携帯電話による、計画書の提出、入山・下山連絡を柱にして個人会員の安全山行をサポートします。希望する既存の会・会員も参加し、導入する事が可能です。

全国連盟に設置した安全サポートグループ(山行管理グループ)が、管理運営行います。

## 会創立35周年記念パーティーを終えて

東葛山の会 安彦秀夫

我が東葛山の会が産声を上げてから、この3月で丸35年を迎えることができました。これをひとつの節目と考え、2011年4月から2012年3月の1年間を『会創立35周年の記念の年』とし、次のような記念山行や行事等を企画・実施しました。

### 1) 記念山行の実施

『海外登山』：5月14～17日 韓国濟州島ハルラ山 ⇒ 中止

『集中登山』：8月24～29日 北アルプス双六小屋28日集合

『日帰り鍋山行』：11月5日 竜ヶ岳（会報表紙絵写真撮影）

### 2) 記念誌『みちしるべ』の発行

### 3) 記念品『マフラータオル（東葛山の会ロゴマーク入り）』の配布

### 4) 記念パーティーの開催 3月10～11日 美ヶ原高原 王ヶ頭ホテル

しかし、2011年3月11日に東日本大震災があり、『海外登山』が急遽中止になり、出鼻を挫かれた感じでしたが、その後の『双六小屋集中登山』や『竜ヶ岳鍋山行』そして『今回のパーティー（祝賀会）』と、多くの会員の参加で、35周年という節目の記念になる、且つ、思い出・記憶に残る行事・山行を実施することができたと確信しています。

今回のパーティーでは、会員54名中41名という大勢の参加者が集い、皆で盛大に祝おう…という意気込みを感じました。

前日から降った雪のため、私達の乗ったバスは、中央高速の大渋滞に捕まり、ホテルには、大幅に遅れて到着しました。しかし、天候も悪くはなく、膝まで降り積もった雪を蹴散らし、『王ヶ鼻・王ヶ頭ハイク』を参加者全員で楽しみました。

ホテルに戻った後は、裏方全員がレストランに集合し、パーティー会場の準備を行いました。他の多くの会員には、冷えた身体を温泉にて温めてもらいました。私も、山行のスナップ写真投影のパソコンとプロジェクターの準備を済ませ、短時間ではありましたが温泉で冷えた身体を温めました。

全員がレストランに集まり、まずは、記念写真を撮りました。くじ引きで決められた席に着いた後、会長の挨拶、副会長の乾杯でパーティーが始まりました。

『永年活動会員3名（30年）の表彰』、『手作りの記念誌披露』、『会のロゴがプリントされた記念品披露』、『特技・隠し芸の芸能披露』、そして『記念山行やこの5年間の思い出の写真を見ながらの報告・談笑』…と、予定していた3時間がアツという間に過ぎ、二次会へと会場を移しました。

これまでも5年毎に同様なパーティーを実施してきましたが、今回初めて、有志による『楽器演奏』と『踊り』が披露されました。これには会場全体が異常(?)に盛り上がり、楽器演奏に加わった一人として、「取り組んで良かった！」と感じられた一瞬でした。と言いますのは、扮装が奇抜でありながらバッチリ似合っていたためかな…と思います。

しかし、その裏では、私ごとですが、この日を迎えるまでは大変な状況でした。と言いますのは、「一緒に演奏しましょう。確かオカリナを演奏しましたよね。」と声を掛けられた時は、20年ほど演奏をしていませんでしたので非常にとまどいと不安を感じましたが、「サプライズとしてパーティーを盛り上げたい」という気持ちから引

き受けることにしました。しかし、「指が自由に動いてくれない」、「息が長く続かない」そして「音が綺麗に出てくれない」という三重苦に悩まされ、加えて、練習する時間が充分に取れないため、一時は辞退しようかな…と悩むほどでした。演奏を終えた時は、もう少し演奏しても良いかな…と思える程でしたが…。

ちなみに、楽器演奏は、『三味線』、『二胡』、『ウクレレ』、『コカリナ』そして私の『オカリナ』で、全く異色の組み合わせの『クインテッド』でした。また、踊りは、『フラダンス』と『新舞踊』で、事前に宅急便にて衣装等を送るという気の入れようでした。これを契機に、我が山の会に『芸能部』を立ち上げようか…！？という声があったとか無かったとか…。

翌日には、視界ゼロでしたが、とりあえず希望者で『美しの塔』までのハイクということで、ホテルをスタートしました。真っ白で何も見えません。ただただ雪上車で踏まれた道をモクモク歩きました。時折薄陽が射ってきて、「もしかして…」という期待を抱かせましたが、直ぐ雲に隠れてしまいました。

『美しの塔』に着いた頃から、霧は消え陽が出てき、周りの山々が見えてきました。ここで戻るのはもったいないということで、当初の目的地である『牛伏山』に向かいました。これが大正解でした！

き、全身で美ヶ原高原の雪上ハイクを楽しみました。

膝までの雪をラッセルして『牛伏山』山頂へ。なんと360度の大展望です！ 吹く風は冷たく感じましたが、周りの山々、特に、北アルプスの山々を全て見渡すことができ、皆満足の顔でした。その後は、誰も歩いていない真っ白な雪原を駆け下りました。時々、股下まで潜ることもありましたが、苦にもならず、快適に歩くことができて話は変わりますが、『山行の写真を見ながら5年間を振り返りましょう…』と企画し、皆さんから思い出の写真を提供して貰いました。しかし、その写真をいかに綺麗にスクリーンに投影するか…でかなり苦労しました。と言いますのは、プロジェクターの確保がなかなか思うようにいかなかったからです。最終的には、会員が勤務している会社からお借りすることが出来、なんとか目的を達成させることができました。大変助かりました。ありがとうございました。

40周年を目指し、今後も沢山の山行を安全に楽しみましょう！  
そして素晴らしい思い出を作りましょう！



## 花博士の花便り。

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

### ◆ 房総の野生ラン

サクラの花が終ると新緑の季節になります。5月の花は、ウツギ、ツツジ、フジ、ヤマボウシ、ミズキ等が次々と咲きます。房総に咲く野生のランについて取り上げてみました。

私の好きなランでは、3月に咲くシュンラン、4月の後半から咲くクマガイソウ、エビネランです。他にシラン、キンラン、ギンラン、アワチドリ、ネジバナ、シュスラン、ミヤマウズラ、クモキリソウ、コ克蘭、ナツエビネ、サイハイラン、セッコク、葉の無い変った花、ムヨウランやツチアケビもラン科の植物です。

ラン類は、綺麗なために、盗掘採取され、絶滅危惧種が多いです。

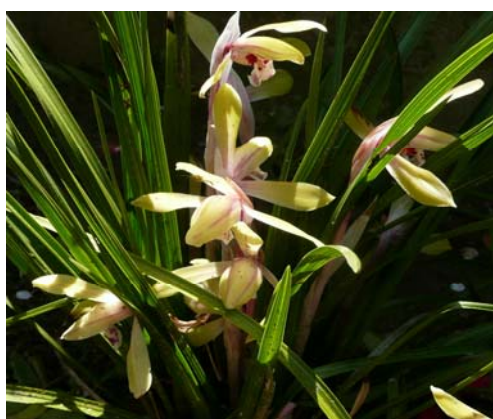
### ◆ シュンラン (ジジババ)

シュンランは、全国の山野に咲きます、花の色が黄色やオレンジ色の変り花を探して、鉢や庭に植えた為に山野であまり観られなくなりました。

房総では、蕊柱を男性器に、唇弁を女性器になぞらえ、一つの花に両方が備わっていることからジジババと呼ばれています。

### ◆ クマガイソウ (ラン科アツモリウ属)

クマガイソウは、武士の熊谷直実の背負った母衣 (ほろ) にたとえてなづけられたそうです。私が茂原に住んで近くの里山を散策して初めて見た花です、何だだろうと思っていたらNHKの趣味の園芸でクマガイソウが放送され、その頃1本千円で売られた為にアツト言う間に、盗掘されて無くなりました。



シュンラン



クマガイソウ



## 第 17 回足尾春の植樹デー参加報告

自然保護委員長 菅井 修  
(ちば山の会)

足尾地区の山は古川銅鉱山採掘と精錬の時に出る亜硫酸ガスや鉛を大量に含む排煙が足尾の谷に充満し、周辺の山の木が完全に枯れ、それに伴って山の土壌そのものが失われ、ひとたび雨が降れば、大規模な山崩れや洪水を起こすようになった。

足尾鉱毒問題では田中正造の公害反対運動が有名である。

鉱山が閉山した後、むき出しになった荒れ果てた不気味な山肌はそのまま残った。1956 年から国や栃木県によって自然回復をめざし治山・治水・砂防工事を初めた国や県による急な斜面の土留めなどの山腹工事。表土の担ぎ上げとネット張り、ヘリコプターによる植物の種まき等が行われた。植樹の横の斜面には金網ネットと貼り付けた土が見られる。

1996 から「足尾に緑を育てる会」が民間活動として広葉落葉樹や実のなる木による植樹活動を開始。昨年までで参加人数は延べ 14,110 人、植樹本数は 61,200 本になる。初期のものは 10m 程になっている。

今年も全国から多くの人達が植樹活動に参加した。植樹場所は土留め工事と、土担ぎ上げ後、安定化が完成した場所だ。斜面に土を入れた植樹様の棚が何段にも作られている。写真の場所は昨年植樹した戸四郎沢 A1 ゾーンです。植樹した苗木は根付くのが半分ほどで、さらに鹿の食害で残るのはほんの少しだけだそうです。いちごごっこのようだが、あきらめず根気よく続けていかなければならないようだ。

今年も天気予報が雨にもかかわらず 21 日は 700 人、22 日は 550 人が参加植樹した。私は植樹の他に栃木労山の皆さんと、一般参加者の案内と安全確保の活動を 2 日間行った。



木々が無くなり、剥きだしになった山肌に、段々畑のように植樹帯をつくり植樹する結構きつい仕事である。

毎年、暑い日は、熱中症

寒い日は、低体温症

になる参加者もいる。

ドクター、栃木県連救助隊が万一来てて待機する。

毎年、出番があるそうです。

編集担当 広木 国昭

## 2012年度雪上技術講習の報告

教育遭対委員会 岡田 賢一  
(船橋勤労者山の会)

- 日時 4 / 7 - 8
- 場所 谷川岳マチガ沢出合、土合山の家付近
- 主催 教育遭難対策委員会
- 参加 4 / 7 7山岳会 (ちば山の会 船橋勤労者山の会 岳樺クラブ  
こまくさHC 東葛山の会 まつど山翠会 松戸山の会) 計31名  
4 / 8 6山岳会 (ちば山の会 船橋勤労者山の会 岳樺クラブ  
こまくさHC まつど山翠会 松戸山の会) 計16名
- 内容 (1) 雪上技術講習 4 / 7 7 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0 < 午前組 午後組 >  
講師 : ちば山の会
  - ・ 登下降訓練 (キックステップ)
  - ・ 滑落停止訓練 (初期停止が重要)
  - ・ 確保訓練 (アックスビレイ)
  - ・ セルフレスキュー(2) シート梱包・搬出法 4 / 8 8 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0  
講師 : 千葉県連救助隊
  - ・ シート梱包 / 搬送の訓練 (救助隊デモ後に実習)
  - ・ 吊り上げ / 吊り下ろし法の紹介
- 総括 2日間に設定したことにより、時間に余裕が出来て、丁寧な実技講習が出来た点は評価される。  
また、他会 (講師会) の技術に触れられる機会は貴重である。  
一方 初日の参加者は「ちば山の会」以外の参加が少なく、また2日目は救助隊以外の参加者が少なかった事は、次回取り組み時には改善を要する。



講師は 横山救助隊副隊長  
吹雪の中、熱の入った講義でした。



搬送訓練 : 梱包は県連救助隊考案の  
新方法です。(新案特許申請中)

## 沢登り経験技術交流集会報告

— 沢んちゅの会 —

日程：2012年4月14日～15日

参加者：ちば山の会（鶴田、上茂、渡邊三、渡辺理、加藤）、かがりび山の会（山本、平井、川上、花村）、ACT 峰友（小谷、堀口）、船橋勤労者山の会（吉田、岩本）、日本山岳会青年部（菊地、直江）千葉工大山岳部（小森）、以上16名

理事長 吉田 哲治

県連内での沢愛好者の横の連帯を深めるべく、沢の経験技術交流集会を丹沢・水無川流域で行った。

せっかく沢に集うのであるから、単なる交流会で終わらせることなく、技術的な習得も目的として、初日の14日はモミソ沢出合いの懸垂岩にて初動の搬出訓練を行った。

不幸にも山において事故が起きた場合、負傷者を少なくとも安全な場所まで移動させることは、パーティにとっての最低限の責務である。岩においては、墜落したトップが負傷して登り返すことができない状態になった場合や、沢においては狭いゴルジュ内での滑落による負傷など、想定される事態は様々であるが、まずは、負傷者を安全な場所に収容することが初期のレスキューとしては大切なことである。今回の搬出訓練は、事故が起きた場合、まず最初にやらなければならないこと、当該パーティだけで、持っている装備のみを使ってのセルフレスキューに主眼をおいて訓練した。



このような訓練は、事故時の対処法を習得するとともに、実際に負傷者一人を背負い搬出することがいかに重労働であるか、搬出というものがどれだけ大変であるかの意識付けすることにより、安全登山への啓蒙ともなりうるものであると確信している。事故は起こしてはならないが、しかし不幸にして事故は起こるものである。また他のパーティの事故にも遭遇することがあるであろう。そのような時、何もできないで

いるようなことがあってはならない。事故者を背負う搬送者でなくても、確保の作業等何かできることはあるはずである。搬出においてもっとも大事なことは二重遭難を起こしてはならないことであるが、このような訓練を反復継続することにより、有事に対処できるような力を付けてもらいたいと思う。

残念ながら雨で途中で切り上げざるをえなくなり、予定していたことの半分もできなかったが、ロープワークも含めて、内容的にしっかりとしたカリキュラムを作成して今

後も行いたいと思っている。

そして、翌 15 日は 3 つのパーティ（水無川本谷、セドノ沢左俣、戸沢左俣）に分かれて表尾根の書策小屋跡集中とした。全員無事に 3 パーティ集中でき、県連の結束がより強くなった感触が得られたのは収穫であった。詳しくは各パーティの報告を読んでいただきたい。

今回は交流集会の初回ということで反省すべきところは多々あったが、その反省点を踏まえつつ、沢における技術の向上、事故防止への取組みを図り、そして、県連内の連帯を深める意味でも、今後とも交流集会を持ちたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

### 沢んちゅうに参加して（水無川本谷）

記 平井 昭（かがりび山の会）

4/14 9:10~30 新茅荘に集合・説明。9:45~11:45 懸垂岩にて搬出デモ及び三組の搬出実習。三組の搬出訓練終了時点で、雨本降りになり、足場大分滑りやすく、安全の見地から、十分な訓練を次回に約束して訓練全体を終了。全員で宿泊所に充てられた倉見山荘に移動。ちば山はスーパー銭湯へ。残りのメンバーは夕方からの大焚火のための間伐材や倒木を集め、夜半までの材料作りに精を出す。船山の岩本さんとその後輩の千葉工大の関係者、とびっきりの若手(ぴちぴちの連中)が大いに働いてくれ夕食後の大焚火を盛り上げ、どちらかと云うと少し年齢的には草臥れた連中に、大いに元気の素を分け与えて頂き、それぞれの会だけでは味わえない新鮮な交流集会ができ、初回の 16 名ではあったが、横のつながりが生まれ、今までには無い、一つの新しい山行の形として発展しそうな予感がした。又、倉見山荘下の広い河原は、大焚火をするのに適した場所で、火事の心配も無く、かなり集めた木材が朝までに、ほぼ完ぺきに燃え、残り僅かな燃えカスも、朝、集めて完全燃焼。久方ぶりの焚火の盛大な炎で心身共にリフレッシュ。沢の魅力もさることながら、この盛大な焚火に憑かれてしまった人もいたのではなかろうか？ACT 峰友の小谷焚火名人の指導の基に、雨の中の大焚火も県連の行事の中に大きな火を燃やした？

4/15 5:10 起床・朝食 7:30 倉見山荘出発 8:00~8:30 戸沢キャンプ場

**3 班に分かれて行動。**水無川本谷・セドの左俣・戸沢の三班に分かれる。

**水無川本谷** 本谷だけかがりび 4 人のみの編成になって、昨年大震災の後は沢に全く入っていなかったのではほぼ全員が二年振り近いブランクの中慎重に入溪。

9:00 入溪 9:15 F1 終了。9:40 一本 10:40~11:10 書策新道出合い(F5 上)大休止

12:15 書策小屋跡地 12:15 戸沢班合流 12:35 セド左俣班合流 13:10 合流地出発

14:15 戸沢キャンプ地 14:30 解散式

**\*水無川本谷での反省点** 二年振りもあり、本谷が初めての者が一人と、全員が 64 歳以上の為、無理が全く効かない班であったので、書策新道の出合いで 10:40、出合いから書策小屋跡まで 1 時間。早めの昼を食べ 11:10 出発で途中少し崩壊の個所があるも 1:05 で到着。12 時半集合の時間に 15 分早く到着。F5 で終わらず、全部をやれば、1 時間は予定時間をオーバーしただろう。F5 でのみロープを出したが、トップで登り、セカンドが少し不安感を持ったので、途中でロープを出したが。残置スリングが最後の

個所が少々足りず、それを掴んで越せば何等問題が無いが、そこでロープを着けて滑落した場合 10メートルくらい落下して振られ岩壁に激突する危険があった。それを回避するにはセカンドがロープを固定し、自らはカラビナ+スリングで通過しなければならなかったが、セカンドがロープを固定出来ず、安心感のみのロープで終了したが、微妙な選択だった。僅か 10 cmに満たない場所でのロープは、落ちれば 10m振られて確実に岩壁に激突する選択は、如何に本人が危険個所を認識し、慎重に自力で通過する以外に無い。本来有るべき鎖が無くなったことで、初心者には厳しい選択だった。今後の為にこのような場合の選択をどのようにし、問題解決を諮るか？ 良い宿題を与えられた。本来は鎖が設置されていたようだが、現在は何等かの理由で撤去されている。その為に最後の僅かな部分がやや難しくなった。トップの判断だが、初心者が居た場合は、自分が通過出来る事よりも、初心者が通過出来るのかを、要件として行動する基準が取られてなければリスクは高まる。今回の件は少し難しいと感じた時点でロープ工作を取り、最終が回収すれば、ロープを中途半端な使い方をせず、フィックスロープを利用してのビレイで、リスクな行動を取る事も無く安全に難場をクリア出来た事を反省。それぞれ経験の違うメンバーの検討課題になり、良い経験になった。

**\*搬出訓練での反省** 吉田理事長が搬出のデモンストレーションをやったあと、平井がメンバーの花村を背負ってテラスからの 10m 下への搬出訓練に名乗りを上げトップバッターになったが、けが人役の花村の体重が 60 キロあり、最初座って背負い立ち上がろうとしたら全く立つ事が出来ず、中腰になって背負ったら、初めて立ち上がった。その時に気づけば良かったのだが 70 キロ 64 歳が、60 キロ 64 歳を背負い懸垂下降するには、常識から云っては有り得ないし無理が有る。おまけに背負われる人間が、けが人に徹して全く腕に力を入れず、背負われる側から上体が段々離れそっくり返る形になったから、半分位下降した位置から、懸垂下降している人間が後に引っ張られ、ロープから上体が 45 度位に傾き、ロープ操作が困難を極め、やっとのことで降り立った。原因は背負われた人間の固定が緩み、段々にそっくり返った事と、50 キロ位までが背負える重量の限界だったのでは。重い場合、背負う側と背負われる側が密着していないと、背負う側に余分な荷重が掛かり下手をすれば天地が逆になり、操作不能になる場合も考えられるので、けが人側の身体を背負う側に固定すると同時に、けが人の腕を背負う人の前で両腕を緊縛して緩まないようにするのも一法かと考えます。実際のけが人では、意識が混濁又は不明の場合、もっと扱い難いのでは無いでしょうか？ 安全を優先させるなら、多少背負われる側は痛みを伴うかもしれないが、固定して得られる確実な引き下ろしとして、腕の緊縛（固定化）も視野に入れておいた方がベターと考えました。

**感想** 大震災後、沢は初めてだった。行きたくても行けない状況だった。でも約一年半振り位に沢に入り、久し振りの滝の傍を歩いたり登ったりの、何とも言えない緊張感や自然にどっぷり浸かる爽やかな感じは何ものにも変えがたい貴重な体験だったし、やめられない、かけがいのない山登りだったと再認識させられた。まさに沢は人間を再生させてくれる、強力な磁場のようだった。

沢から書策新道に上がり、所々、危険個所は有ったモノの、普通の道の何と有りがたいこと！又書策小屋跡から戸沢に下る道々、去年の今頃の余震の多発で、生活全般が不安定な時期に、二度と今のような日が来る事が思えなかった日々と比べ、今のあるしあわせにジーンとして、不覚にも涙をこぼした。新しい仲間乾杯！沢んちゅうの発展を！

## セドノ沢左俣遡行報告

記 鶴田秀雄（ちば山の会）

河原の素晴らしいたき火を囲んでの語らいとなかなかの居心地の倉見山荘でのお酒で前夜は快眠出来たとメンバーはみなすっきりした表情だ。我々の行く先はセドノ沢左俣と決まった。ちば山の会の5人にこの日の朝現地着のACT峰友の堀口さんを加えて総勢6人で出発する。リーダーはちば山の上茂さん、サブリーダーは同じく渡邊三ちゃん。二人とも沢の申し子とあってよく、従う私たちは安心感いっぱい。セドノ沢の出合いで水無川本谷に行くかがり火山の会グループと安全を約して別れる。二俣からナメや小滝が続き適度な緊張感が心地よい。4月の沢の水はまだ冷たくときどきブルっとくる。死んだ小鹿の体の横を歩いていったが自然の厳しさを感じた。要所でトップがザイルを出してくれるので不安なく登っていった。ACT峰友の堀口さんは実に見事にバランスよくすいすい登ってこられる。大滝は左岸を登るが私にはなかなか手ごわく、上部落ち口へのトラバース気味の登りは相当緊張した。大滝を過ぎて傾斜が増してきて源流近しを思わせる頃、奥に10m位のまっすぐに落ちる滝が見えた。この地点で12時近く、約束の時間も迫ってきているので、右岸に見え隠れする書策新道に入る。稜線への詰めは傾斜もきつく足もとも崩れやすく慎重を要した。

吉田隊長から電話が入ったが、どうやら他のグループは待ち合わせ場所に到着しているようだ。すぐに稜線に出るとみなが明るい顔で迎えてくれた。この一瞬はほんとうにいいものだ。しばし憩い、集合写真を撮って下山を開始した。

今シーズン初めての沢登りであったが、充実して楽しい2日間でした。吉田理事長始め参加された全員の方々にお礼を申し上げます。

## 戸沢左俣

菊地信宏（日本山岳会青年部）

いつも思うことだが、山登りは人と人をつなげてくれる。今回の沢山行も例外ではなかった。千葉在住の僕ですが、数年前から山登りに富山、長野、山梨等々にせっせと通っている。一人では寂しいので日本山岳会青年部に所属した。沢の魅力にもハマっている。水が好きでクライミングが好き。沢は僕にとって究極の遊びになった。

今回の沢交流会の参加理由に搬送訓練をするというのもひとつの魅力だった。僕もいずれはリーダーになって仲間を安全に連れて行きたいからだ。

初めて人間を背負っての懸垂下降は思った以上にキツくバランスを取るのも難しかった。バックアップを取ったブルージックが大人二人の体重で食い込み過ぎなかなか降りられないのだ。見ているのとやるのとでは大きく違った。降りてきてから平井さんにバックアップの種類や注意点を教えてもらった。雨の中の訓練ではあったが、とても集中していた。やむを得ず時間が短縮されたが、僕にとって大きな収穫だった。これを知っているのと知らないのとでは大違い、もっともっと勉強しなければ。

夜の懇親会では、またまた衝撃を受けた。さすがに皆さん年齢が入っていて今まで見てき

たどのキャンプファイヤーより3倍の勢いのある炎と情熱と歌声だった。異次元空間に引きずりこまれたと錯覚した夜だった。沢んちゅさいこー！！

二日目、3班に別れての沢登りが始まった。僕は、戸沢コースだ。

きれいな景色と連続する小滝に僕のテンションは30分もしないうちにMAXになった。首にかけた水中眼鏡を装着すると、自ら小滝に入り水に打たれた。12mほどの滝も巻かずに、わがまま言わせてもらい、確保して登ることが出来た。また山登りの視野がひろがった。

親愛をこめて呼ばせていただく。ガンポン兄貴と吉田のオヤジに感謝です。

船橋山の会/千葉工業大学山岳部 OB/日本山岳会青年部  
岩本 崇

この度は、労山の会員以外の3名（日本山岳会青年部2名・千葉工業大学山岳部1名）を交流会に参加させて頂き有り難うございました。吉田理事長始め、皆様に感謝申し上げます。

1日目の搬送訓練では、雨で予定の半分位しか出来ませんでしたが人が人での役で背おられて降りた経験は初めてでしたので良い経験になりました。懇親会でも皆様と色々な情報交換させて頂き、また盛大なたき火を前に楽しく懇親会が出来ました。

2日は、ACTの小谷さんリーダーで戸沢に登り、寒い中シャワークライミングが出来良かったのですが、途中学生の小森君が低体温症になり危ない所でしたが、小谷リーダーの素速い判断でたき火をする事態になりましたが小森君が大事に至らず助かりました。非常に勉強になった交流会でした。



## 災害支援報告（4/28～30）

NPO 法人ちば労山ゆう  
理事長 吉田 哲治

3月21日に発足したNPO法人ちば労山ゆうとして初めての災害支援を、4月28～30日にわたり石巻・牡鹿半島にて行いました。千葉県連より9つの会26名、神奈川県連1名、一般2名、計29名のご協力・ご支援を得、昨年より継続してきた支援が今後NPOとして持続した息の長い支援としていくためにも、今回多くの参加を得てスタートできたことに感謝いたします。

支援の内容は、山岳団体を母体とする組織体への期待から、一般ボランティアではできないような、ザイルを使用しての急斜面からのがれき撤去作業を行いました。初日は谷川浜、二日目は女川原発近くの寄磯浜でしたが、まだこのようなところが数箇所あるとのこと。もちろん、安全第一に作業を行ったのは言うまでもありません。

そして、NPOとして初回ということもあり、宿泊場所の水沼センターではNPOの内部細則の討議、これからの活動の方向性等のミーティングを持ちました。北海道連、滋賀県連の仲間も一緒だったため短い時間でしたが、みなさん熱心に意見を発していただき、NPOへの期待の大きさを実感しました。

最終日は、地元の山を登って石巻労山の里山を守る運動、地元の山に対する思いなど、実際の災害支援とは違う角度から石巻を知ることも大事なことと考え、「石巻緑のハイキングロード」を水沼山から上品山（じょうぼんさん）まで歩きました。山は新緑には少し早かったですが、いろいろな花を愛で、山菜を採って心地よい汗を流すことができました。

支援に行くたびに、少しずつではあるが復旧へと向かっている感じが感じられるのは喜ばしいことです。今回は小湊浜にてわかめの水揚げ作業を見学させていただきました。周りのはがれきの山が残されたままになっているけど、多くの方が一生懸命働いていました。津波になんか負けてられるか、という心意気が伝わってくるようでした。メカブをいただきましたが、もちろん水沼センターの夕食に上がったのは言うまでもありません。作業を手伝って欲しいと言われましたが、残念ながらわかめの水揚げのシーズンはもうすぐ終わりのようです。

また、他の場所ではほやや牡蠣の種付け作業の準備中でした。その作業にも、漁協の組合長さんより聞いたところでは、牡鹿VCに協力の要請をしているがなかなか来てくれない、とのことでした。他にもいろいろな方のお話を伺いする機会がありました。あれだけの災害なのだからまだまだやれることはある、求められていることは多々あると。



その求められているものは何かを真摯に考え、求められるものをできる限りやっていききたいと、多くの声に後押しされて立ち上げたのが「NPO 法人ちば労山ゆう」です。これからはがれき撤去などの作業のみならず、他方面あるいはメンタルな支援も視野に入れながら継続していきますので、今後ともご支援・ご協力よろしくお願いたします。



NPO法人「ちば労山ゆう」第1回支援活動参加者

### 全国連盟支援活動対策本部よりのお願いとお知らせ

- ・ 対策本部では、引き続き支援物資・支援金の受付を継続して行きます。各地方連盟においては、支援金・義援金の募金活動をおねがいます。
- ・ 支援活動は、宮城県でも石巻地区に限定されているのが現状です。これは、受入れ体制の問題が大きな要因です。

石巻地区には、岡さんと言う強力なバックグラウンドがあります。この力無くしては、一年間の支援活動は勿論今後の支援活動もありません。

対策本部は、石巻以外の被災地への支援活動も視野に入れて、新たな支援地、支援活動を模索しています。特に、岩手県、福島県における支援活動を最重点に調整して行きたと考えています。

- ・ 登山道の放射能測定について。放射能測定器10台を購入して、福島県を中心に関東近県・48か所の山・登山道を測定している。

千葉県連盟としても、独自の計画を作成して取り組む必要があるのではないかと。自然保護委員会を中心にクリーンハイク等に合わせて取り組んでいきたい。

副本部長 広木 国昭

# 福島によせて

第1部

愛の飾画	船川利夫	尺八 井上喜義 河野正明 箏 井上久子
トロイメライ 「戻ってきた日付」より	シューマン 林光	ピアノ 桐生啓子
ニーグン 飴売コ	ブロッホ おきはるお	ヴァイオリン 渡部玲子 ピアノ 柳瀬洋子
バラード第3番	ショパン	ピアノ 平木晶子
Korean Suite	池田文彦	ファゴット 加藤洋男 ピアノ 柴田優美子

第2部

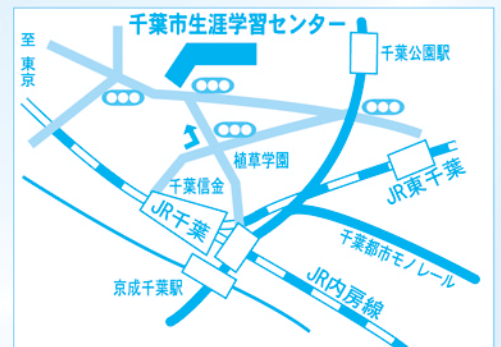
松島音頭	山田耕筰	ソプラノ 堀口弥生
オペラ「夕鶴」より “私の大事な与ひょう” 他	團伊玖磨	ピアノ 平木晶子
詩と音楽 「つぶてソング」より あなたはどこに フルサト 他	詩 和合亮一 曲 新実徳英	朗読 浪岡浩子 指揮 遠藤久江 合唱 新婦人コーラス ひまわり
会津磐梯山 ポーリュシカポーレ	編曲 石丸寛 作曲 L. クニッペル 編曲 安藤由布樹	合唱 千葉合唱団 指揮 安藤由布樹 ピアノ 木村裕平

エピローグ

見上げてごらん夜の星を 他 全員合唱



磐梯山



- ・ JR 千葉駅東口または北口から徒歩8分
- ・ 千葉都市モノレール「千葉公園駅」から徒歩5分
- ・ JR 千葉駅北口から、千葉内陸バス「千葉駅」行で「中央図書館・生涯学習センター」下車

2012年 7月16日(月・祝)

2:00p.m. 開演 (開場 1:30)

千葉市生涯学習センターホール

前売券 1,800円 / 当日券 2,000円

全自由席 (高校生以下 1,000円)

平和を願う音楽家の会

■スタッフ

プロデューサー 井上喜義 舞台監督 岡村 武

●お問い合わせ ☎ 043-241-2697 (平木)

# 県連たより

## 県連盟連絡先

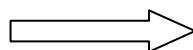
- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所  
〒262-0033  
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18  
レジデンス幕張台 101 号室  
TEL・FAX： 043-306-1190  
Eメール：[rousanchiba@grape.plala.or.jp](mailto:rousanchiba@grape.plala.or.jp)  
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
- ◎ 千葉県連ホームページ  
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先  
[newstoukou@cwaf.jp](mailto:newstoukou@cwaf.jp)
- ◎ 事故一報送付先  
教遭委員長・岡田 賢一  
[ken-ichi@f4.dion.ne.jp](mailto:ken-ichi@f4.dion.ne.jp)  
Fax：043-271-4704  
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事
- ◎ 連盟費振込み先  
郵便振替口座 00160-3-481509  
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東北関東大震災・支援金振込み先  
口座番号：ゆうちょ銀行  
00130-7-595190  
加入者名 佐藤 勝子  
〒272-0023  
市川市南八幡 1-25-16

### ★ 助けてください

事務局のお手伝いをお願いします。

事務所の片付け・資料の整理などを、空いた時間でお手伝い下さい。一人でもお友達と一緒にでも大歓迎です。

連絡は：広木まで・連絡先



## NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ ホームページに「ちば労ゆう」のページを作成しました。

- ・ 県連ホームページからも入会出来ます。
- ・ 入会申し込み

<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>

「ちば労山ゆう」への問合せ

<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

- ・ 5月 支援活動日  
5月12・13日 支援活動  
5月14日 石巻市民ハイキングと交流会参加。

- ・ 入会情報（4月末まとめ）

正会員数	52名
賛助会員数	31名
合計	83名

入会をお待ちしています。

☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

- ・ 事務局のお手伝いを募集していました。

「まつど遠足クラブ1年さくら組」の、窪田さんが手を挙げてくれました。

「県連役員名簿」の作成をお願いしました。前期は、作成出来ず大変不便でした。

よろしくお願いします。

[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)

県連活動予定表

5		6	
1	火	1	金
2	水	2	土
3	木	3	日
4	金	4	月
5	土	5	火 役員会
6	日	6	水
7	月 役員会	7	木
8	火	8	金
9	水	9	土
10	木 ウィークデイ山行	10	日
11	金	11	月
12	土	12	火
13	日	13	水
14	月	14	木
15	火	15	金
16	水	16	土
17	木 県連理事会	17	日
18	金	18	月 救助隊例会 ・女性委員会
19	土	19	火
20	日 ふれあいハイク	20	水
21	月 救助隊例会	21	木 県連理事会
22	火	22	金
23	水	23	土
24	木 拡大部会・自然保護委員会	24	日
25	金	25	月
26	土	26	火
27	日	27	水
28	月	28	木 拡大部会
29	火 NPO役員会	29	金
30	水	30	土 全国新特別基金担当者会議
31	木		